

14 脳神経外科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

患者および同僚医師から信頼される脳神経外科のスペシャリストを育成することを研修目的とする。研修期間終了時に脳神経外科専門医や日本脳神経血管内治療学会専門医の取得を目指す。

当院は県内有数の総合病院で、救命救急センターや新生児医療センターが併設されている。そのため、当院の脳神経外科は他施設と比較すると、扱っている疾患は多種多様で、その数も多い。(手術件数は300件以上)。従って、多彩かつ豊富な症例をもとに脳神経外科一般の研修が可能である。また、救命救急センターでは重症患者が多数搬送され、救急医をはじめ、他科の医師の協力のもとに治療が行われており、脳神経外科医として必須の急性期の患者の管理、治療に関する研修が十分におこない得る。

その他の特色としては、脳動脈瘤や閉塞性脳血管障害等に対して積極的に血管内手術を施行している点で、症例数は日本でも有数である。また、10数年前より低侵襲の脊椎手術を積極的に施行している点も特色で、良好な成績をあげている。一般脳神経外科のみならず、今後ますます重要となってゆく分野を十分に研修できるであろう。

2. 研修内容と到達目標

研修期間は日本脳神経外科学会専門医の受験資格を得られる6年である。

1年目

- ①急性期の脳卒中や外傷患者あるいは術後の患者の管理を行う上でも患者の全身管理は必須である。初期研修で修得した内科的知識を最確認し、適切な全身管理を行う技術を修得する。
- ②患者の状態を正確に把握する。すなわち、意識レベル、神経学的所見を確実にとる訓練を行う。
- ③neuroimaging(CT, MRI, MRA, Angiography等)を読影できるようにする。
- ④血管造影、脊髄造影等の検査手技の習得
- ⑤穿頭術(慢性硬膜下血腫、ステレオ biopsy)、頭蓋形成術、脳室腹腔 shunt 術等の手術の習得
- ⑥学会発表を行う。

2年目

- ①低体温療法などに必要なより高度の全身管理の習得
- ②Neuroimaging のより深い理解
- ③血管造影、脊髄造影、ブロックの熟達
- ④減圧開頭術(硬膜外および硬膜下血腫など)、椎弓切除など基本手術の修得

3年目-4年目

- ①個人で適切に診断、手術適応を判断し、手術前後の全身管理を行えるようにする。
- ②microcatheterを使用した簡単な血管内手術手技の習得(血栓溶解、腫瘍塞栓術)

③顕微鏡による吻合術の練習と簡単な顕微鏡手術（脳内出血等）、後頭窩開頭、頸椎前方および後方からの手術手技等の習得

④論文の投稿

5年目 - 6年目

①顕微鏡手術の熟達；表層の腫瘍摘出、浅側頭・中大脳動脈吻合術、動脈瘤のクリッピング（未破裂と一部破裂を含む）などを行なう。

②脊椎のインスツルメンテーション手術

③血管内手術；動脈瘤のcoiling、頸動脈のステント留置術

④論文の投稿

⑤専門医試験に備える。